

株式会社免疫生物研究所

JASDAQグロース 証券コード:4570



代表取締役社長 清藤 勉

平成28年5月25日（水）

■ 平成28年3月期（第34期）

決算報告（連結）

■ 平成29年3月期（第35期）業績予想

【診断・試薬事業】

単位:千円	前期	当期	増減%
売上高	504,917	527,623	4.5%増
営業利益	△26,594	+121,736	赤字⇒黒字

(売上高)

- ⇒ 国内外でEIAキット製品の販売数が伸長
- ⇒ BSEキットが安定した収益源
- ⇒ マイコプラズマ感染症の診断薬原料の販売が、順調に推移

(営業利益)

- ⇒ 研究用試薬において、販売方法の変更により粗利益率が向上

【遺伝子組換えカイコ事業】

単位:千円	前期	当期	増減%
売上高	90,519	67,433	25.5%減
営業利益	△44,881	△142,444	赤字増大

(売上高)

⇒ 前期にアステラス製薬(株)からの一時金収入があったため減少

(営業利益)

⇒ 積極的に研究開発費へ投資

- ・人員の採用
- ・パイロットプラントの賃借費用等
- ・フィブリノゲン開発費用増

【検査事業】

単位:千円	前期	当期	増減%
売上高	109,977	111,756	1.6%増
営業利益	△38,807	△20,158	赤字減少

(売上高)

- ⇒ 新規顧客獲得キャンペーンや学会出展のプロモーションが奏功
(診断試薬事業との協業)
- ⇒ 血中遊離コリン測定サービスは、製薬企業等から成約獲得

(営業利益)

- ⇒ 検査作業や業務の効率化を図る

【化粧品関連事業】

単位:千円	前期	前期(注) MC除外	当期	増減%
売上高	25,213	9,410	15,793	37.4%減
営業利益	△74,923	△36,216	△35,447	赤字減少

(注)株式会社エムコスメティックス(MC)は、前年度末に連結子会社から除外したため、同社の業績を除外した数値

(売上高)

⇒ **ダイレクトメールや電話によるアウトバウンド等の活動強化**

会員数 2,077名(前年度末849名)

⇒ **展示会やセミナー等により集客した取引先様への販売活動を実施**

(営業利益)

⇒ **高集客率の広告宣伝を選択・集中や業務の効率化を図る**

全社業績（連結）

（千円）	平成27年 3月期 （第33期）	平成28年 3月期 （第34期）	前年比
売上高	729,030	717,661	△1.6%
売上総利益	367,085	452,029	+23.1%
営業利益（△損失）	△181,517	△75,353	赤字減少
経常利益（△損失）	△139,084	△81,797	赤字減少
親会社株主に帰属する当期 純利益（△損失）	△158,480	△31,898	赤字減少

営業損益⇒診断・試薬事業において販売契約変更等で収益性が向上
⇒遺伝子組換えカイコ事業の研究開発やパイロットプラント建設のための費用が増加

経常損益⇒債務消滅益及び為替差損並びに新株発行費用等の計上
親会社株主に帰属する当期純損失⇒投資有価証券評価損の計上

キャッシュフロー（連結）

（千円）	H28年3月期 （第34期）	主な要因
営業CF	△16,984	<ul style="list-style-type: none"> ■ 親会社株主に帰属する当期純損失の計上 △31,898 ■ 減価償却費の計上 +74,966 ■ 売上債権の回収 +29,090 ■ 返品調整引当金の減少 △38,738
投資CF	△607,709,	<ul style="list-style-type: none"> ■ 投資有価証券の売却による収入 +170,366 ■ パイロットプラント建設等に伴う有形固定資産の取得による支出 △695,392 ■ 投資有価証券を取得したことによる支出 △50,000
財務CF	+286,671	<ul style="list-style-type: none"> ■ 長期借入金の約定弁済 △102,368 ■ 転換社債発行による収入 +196,291 ■ 第三者割当増資による株式の発行収入 +198,271
現金及び現金同等物の 期末残高	891,915	

貸借対照表（連結）

(百万円)	前期末	当期末	増減	総括(百万円)
流動資産	1,826	1,485	△341	[流動資産] 主な要因 現金及び預金 △310
固定資産	1,311	1,871	+559	[固定資産] 主な要因 前橋研究所建設 +680 保有株式の売却 △100
資産合計	3,138	3,356	+218	
流動負債	233	164	△68	[流動負債] 主な要因 返品調整引当金の減少 △38 1年以内返済予定長期借入金 △22
固定負債	284	405	+120	[固定負債] 主な要因 社債 +200 長期借入金 △80
負債合計	518	569	+51	
純資産合計	2,619	2,786	+166	[純資産] 主な要因 第三者割当増資 +200 親会社株主に帰属する当期純損失 △31
負債純資産合計	3,138	3,356	+218	

■ 平成28年3月期（第34期）決算報告（連結）

■ 平成29年3月期（第35期）
業績予想

【診断・試薬事業】

※今後上市予定の研究用試薬製品

⇒老化関連分子に対する抗体・測定系としてマウス動物モデルでの使用を目的にマウスの尿中 α -Klotho測定キットの製品化を予定

⇒認知症関連タンパク質として、アミロイド β と並び重要なターゲット分子であるタウタンパク質の測定系を開発中

⇒メタボリックシンドローム・生活習慣病関連分子に対する抗体・測定系として血糖値をコントロールするインスリンの分泌を促進するインクレチンというホルモンの測定系開発を進めてまいります。また、脂質代謝関連分子に関しては、酵素活性の新規測定系の開発中

⇒腎臓病関連分子に対する抗体・測定系として腎臓病の中でも特にIgA腎症と呼ばれる疾患に特異的なマーカーに対する測定系を開発中

【診断・試薬事業】

※体外診断用医薬品で現在進行している共同研究開発

・難聴・めまいの原因を生化学的に診断できるバイオマーカー「CTP(cochlintomo-protein)」

⇒(株)コスミックコーポレーションと早期に体外診断用医薬品の承認申請及び製品化の実現を目指す

・成人T細胞白血病(ATL)の診断に有効と考えられる関連タンパク質に対する抗体や測定系の開発中

・筋ジストロフィー患者の診断のためのバイオマーカーとして、尿中のタイチンというタンパク質に対する測定系の開発を某大学、及び研究機関との共同研究が進行中

・Muse細胞を用いた再生医療事業に関して共同研究を株式会社Clioと実施

【診断・試薬事業】

単位:千円	当期	次期	増減
売上高	527,623	590,000	+9.9%
営業利益	121,736	146,000	+19.9%

(研究用試薬)

検査事業との営業活動を共有化し、売上高の拡大を目指す

⇒国内外の学会に積極的参加

⇒双方のマーケット市場において、販促活動を強化

(体外診断用医薬品)

安定した収益源として売上高に貢献

⇒BSEキット、マイコプラズマ感染症の診断薬原料、アルツハイマー病
診断薬原料の海外向け販売

得意分野における診断試薬製品を順次上市

【遺伝子組換えカイコ事業】

(研究テーマの選択と集中により、製品化の実現を目指す)

当社グループは、限られた資金を遺伝子組換えカイコ(TGカイコ)事業へ積極的に投資しております。

TGカイコによる抗体医薬品の製品化開発スケジュールにおいて、具体的且つ有望と期待されるテーマについて、研究開発を集中して参ります。

集中テーマ

- ・アステラス製薬(株)との共同研究
カイコ菌由来のヒト型フィブリノゲンを
原料とする医薬品の製品化
- ・(株)CUREDとの共同研究
カイコ菌由来の抗HIV抗体による
抗体医薬品の製品化

継続検討テーマ

- ・インフルエンザワクチンにおける
共同研究

【遺伝子組換えカイコ事業】

単位:千円	当期	次期	増減%
売上高	67,433	70,000	+3.8%
営業利益	△142,444	△310,000	赤字拡大
※研究開発費	114百万円	267百万円	大幅増

- ・有用なタンパク質による体外診断用医薬品や動物用医薬品の原料供給を目指して受託生産を行い売上を計上
 - ・iPS細胞等の培養足場材として有効であるラミン511-E8 フラグメント(ラミン511-E8)を研究用試薬原料として販売準備中
 - ・**医薬品原料の実用化に向け研究開発が増大**
(前橋研究所:平成28年7月稼動予定)
- ⇒**研究開発費予算 267百万円計上(前期114百万円)**
(減価償却費の増加、人員の増強、研究用資材の購入等)

【検査事業】

単位:千円	当期	次期	増減%
売上高	111,756	120,000	7.4%増
営業利益	△20,158	△3,000	赤字縮小

診断・試薬事業との営業活動を共有化

⇒国内外の学会に積極的参加

⇒双方のマーケット市場において、販促活動を強化

新技術による測定サービスで売上高の拡大を目指す

⇒リポタンパク質の「粒子サイズ」に加え「粒子数」の分析が可能

⇒新たにガスクロマトグラフィーを導入

⇒血中遊離コリン測定サービスを開始

検査センター(秋田)の業容拡大にともない増床を計画

【化粧品関連事業】

単位:千円	当期	次期	増減%
売上高	15,793	20,000	+3.8%
営業利益	△35,447	△13,000	赤字縮小

「フレヴァン」シリーズの売上高拡大を目指す

- ⇒Web戦略、雑誌・新聞広告を効果的に活用
- ⇒新規ラインナップの拡充
- ⇒展示会へ積極的に参加しOEM製品を提案
- ⇒群馬県を中心に量販店販売を推進

「ネオシルク®-ヒトコラーゲン」の売上高拡大を目指す

- ⇒化粧品原料展への参加や「ネオシルク®-ヒトコラーゲン」の良さを認知させるための講演会を継続的に実施

新中期経営計画(連結)

(百万円)	H28.3期 (実績)	H29.3期 予想	H30.3期 計画	H31.3期 計画
売上高	717	800	1,015	1,210
診断・試薬事業	527	590	685	760
遺伝子組換えカイコ事業	67	70	60	90
検査事業	111	120	170	200
化粧品関連事業	15	20	100	160
営業利益(△損失)	△75	△180	△70	28
経常利益(△損失)	△81	△180		
親会社株主に帰属する 当期純利益(△損失)	△31	△190		

※遺伝子組換えカイコ事業の計画には、積極的に研究開発費を計上しております。また、アステラス製薬㈱との契約金等の確定していない収益は計上しておりません。

※当社グループは、事業基盤である診断試薬事業を強化し、遺伝子組換えカイコ事業及び検査事業並びに化粧品事業を新たな柱に成長させ企業価値の向上に努めてまいります。



本発表において提供される資料ならびに情報は、当社経営陣が現時点において入手可能な情報によって判断したものであり、不確実である情報から得られた多くの仮定や考えによって作成されております。実際の成果は、さまざまな要素によって変化するため、業績見通し、開発見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知置きください。

実際の業績に影響を与える要素には、国内および国際的な経済情勢、業界ならびに市場の状況、金利および通貨為替の変動、新製品上市の遅延、導出先企業における開発の進捗の遅れ、技術的進歩、競合他社による特許の獲得、国内外の政府による法規制の変更などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。